

ます。

## 7. 町民と行政が連携・協力するまちづくり

(1) 町民と行政が連携・協力するまちづくり

地域主権型社会の実現を目指し「八雲町自治基本条例」の理念と制度をまちづくりにしっかりと浸透させていくとともに「八雲町協働のまちづくり推進プラン」に基づき、町民と行政との協働によるまちづくりを進めてまいります。また、引き続き「八雲町熊石地域づくりプラン」を推進してまいります。

町内会組織等は、協働のパートナーとしてその中枢を担うことが期待されており「地域コミュニティ助成」の有効活用と、パートナーシップの関係を大切にし、様々な協働を育むよう取り組みを進めてまいります。

町民活動団体の連携強化を図るための体制づくりを進めるとともに、一人ひとりが大切にされる優しいまちづくりを基本とした八雲町男女共同参画プランの具体的な事業展開を図ってまいります。

### (2) 国内外の交流の推進

名古屋市・小牧市・松江市八雲町や八雲町出身者等との交流

を通じ、経済や地域の活性化にも結びつくよう事業の推進を図ってまいります。

移住推進事業は、町民や関係団体との連携・協力の下に、人口減少対策および地域経済活性化に資する施策の一つとして引き続き積極的に対応してまいります。

地域力の維持・強化を図るための取り組みとして、総務省が推進する「地域おこし協力隊」を引き続き活用し、地域おこし活動に従事させ、その定住・定着を図る取り組みを推進してまいります。

八雲町の地域課題の解決や地域再生を図るため、大学の知恵と学生の活力を活かした域学連携を進めてまいります。特に、熊石地域の活性化を図るため、地域住民と連携した実践活動を推進してまいります。

### (3) 情報通信の強化

通信事業者による光回線エリアの拡大や携帯電話の高速データ通信の普及により、新しい形でのブロードバンド化が浸透し始めています。これらインターネット技術は、商工業者のみならず、行政や教育の分野へも拡大しています。今後ICT（情報通信技術）の動向を注視し、各方面へ積極的な情報提供や技術支援をしてまいります。

(4) 新たなまちづくりに向けた行財政経営の推進

行財政経営は「協働」と「改革」を軸に、町民と行政との情報共有やコミュニケーションを図りながら推進してまいります。

効率的で持続可能な行財政を確立するため、八雲町行財政改革大綱に基づき「事務事業等見直し方針」を推進するとともに、自主財源の確保を図り、財政健全化の早期実現に努めてまいります。

町民ニーズを適切に把握するとともに、行政評価システムにより、町民の視点を生かした事務事業の改善を推進し、予算編成へ反映させるよう努めてまいります。

東日本大震災を教訓に、自治体業務のBCP（事業継続計画）が重要視されています。電算部門においては、ICT・BCPの初動版の策定に向けて準備してまいります。さらに、重要データの消失防止に有効とされるクラウド化を基幹業務はもとより全ての電算システムについて検討を進めてまいります。

広域行政の推進については、北渡島・北部檜山4町地域連携会議で各分野において検討しておりますが、道南北部の中心的役割を担う町としてこれからも主体的な役割を担ってまいります。

受章おめでとう  
ございます

## 消防庁長官永年勤続功労章

八雲町熊石消防団 第一分団長

井口 好悦さん（熊石雲石町）

井口好悦さんは、昭和53年9月に檜山広域消防組合熊石町消防団に入団以来、現在まで35年以上の永きに亘り、小売業に従事される中、消防団員として幾多の火災や災害に出動し、地域防災に尽力されました。

平成22年12月に分団長に就任以来、消防資機材の整備推進や団員の教育訓練等を積極的に実施し、あらゆる災害に対応できる消防体制づくりに努力されています。

また、旧熊石町から熊石交通指導員、熊石青少年補導員を永年努められております。

八雲町熊石消防団 第四分団長

川原田 隆さん（熊石館平町）

川原田 隆さんは、昭和59年4月に檜山広域消防組合熊石町消防団に入団以来、現在まで30年以上の永きに亘り、小売業、製造業などに従事される中、消防団員として幾多の火災や災害に出動し、地域防災に尽力されました。

平成22年12月に分団長に就任以来、豊富な消防経験を基に団員の育成指導、消防施設の整備等にも積極的に取り組むなど消防団組織のさらなる向上発展に大きく貢献し、複雑多様化する各種災害に対応できる消防体制づくりに努力されています。